

スポーツとデザイン

SPORT AND DESIGN

1K03A229-1 氏名 森田貴行

指導教員 主査 リー・トンプソン先生 副査 木村和彦 先生

・この論文の目的

私は、昔から絵を描いたり物を作る工作が好きだったり、美術やデザインというものに対してとても興味がありました。そして、デザイン関係の仕事につくこと、大学で学んだスポーツ、という二点からこの研究をしようと思いました。

デザインの力。これは私が思っていた以上に大きなものであるらしい。きれいな夕焼けを見たときや、スタイリッシュな建造物を見たときに起こる感動。あれはまさしく自然によるデザインであったり、建築家によるデザインであったりします。感動の場面にはデザインがある、という側面を考えたとき、多くの感動を生むスポーツも例外ではないと考えました。また、デザインの力の大きさは、それを付加価値としてみると、わかりやすいと思います。日本でも普及しているデジタルカメラを例にとると、本来写真が撮ればその機能は果たしたことになります。しかし、多くの会社からデジタルカメラの付加価値としてそのデザイン〔大きさ、重さ、手振れ補正、画面の大きさ、画素数など〕に工夫を凝らしたものが市場には出回っています。建築物にしてもそう、デザイナーズマンションに住みたいという憧れを抱いたことのある人は少なくないと思われる。

そこで今回、私はこのデザインというものに注目してみた。世の中のほとんどのコンテンツにデザインが深く関わっていることから、スポーツにもその関係性はあると思います。その関係性を見ながら、デザインがスポーツを変える、ということにアプローチします。

・研究内容

デザインがスポーツに与えている影響にスポットを置いて、今後の日本のスポーツはデザインによって変わっていくことにアプローチしています。

まず始めに、スポーツに内在するデザインについて考えてみました。スポーツとは何か、デザインとは何かという定義と、近代スポーツにおけるその広がった背景とその広がりデザインに触れています。

次に、さらに具体的なスポーツに内在するデザインについて見てみました。スポーツには道具が必要で、そのすべての道具がスポーツプロダクトと呼べると私は思います。これら全てはデザインされる対象であり、それと同時にそ

のスポーツをデザインする主役ともなりえるのです。スポーツに内在するデザインの代表的なものといっても過言ではないでしょう。この論文では日本代表のユニホームを例にユニホームと、スポーツプロダクトとしてのシューズについて述べています。近代的なデザインのスポーツプロダクトの登場がスポーツ界に新たな一石を投じるのが待ち遠しく思われます。もう一つスポーツに内在するデザインとして見逃せないのが、身体のデザインです。体の形態・カタチのデザインもあれば体の動きのデザインもあります。ここでは、末續慎吾選手や北島康介選手のデザインを例にしました。一般人にとっては体の形のデザインが、アスリートにとっては体の動きのデザインが気になる場所です。

最後に、健康とデザインについて注目しました。健康を意識する世の中で、スポーツの存在は無視できません。健康になるデザインの一つのツールとして、スポーツは存在します。しかし、残念ながら健康ブームはまだ始まったばかりで、スポーツ実施率は決して高いとはいえない状況です。長寿国日本には今後のスポーツ実施率の向上は必須項目であるといえます。デザインの力でできること、まだ多く残っていると思います。

・考察

以上の研究内容を踏まえて、私はこれからの日本にはスポーツが大きな役割を担うと感じました。健康のため、産業発展のため、スポーツが起すデザインで日本は変わることができると思います。デザインの力がスポーツに影響し、スポーツが国を変える、これは特に難しいことではないのです。発展目覚しいITの力を利用してスポーツ産業は大きな変革を遂げました。我々がその力をうまく自分たちでデザインし利用することで、これからもその勢いは衰えることなく発展の一途をたどるであろう。